

イベント・その他講座のご案内



イベント

♪春の昼食会

[日 時] 4月16日(木) 10:00~13:00

[場 所] 教室

[参加費] 1,000円

[内 容] 教室近郊(廃寺公園~博物館周辺)を散策後教室に戻り、昼食をいただきます。



特別講座

🎨 水彩体験講座

[日 時] 5月26日(火) 13:40~16:00

[参加費] 3,000円(資料代込み)

[内 容] パソコンで描く水彩画をご体験ください。手も汚れず、面倒な道具の出し入れも必要ありません。

あとがき

▶花冷えのする寒い日が続きますが、教室前の歩道に植えたムスカリとヒヤシンスが一斉に咲き揃い、紫とピンクのコントラストが目に見え、鮮やかです。▶桜の花は心なしか元気がなく、寂しそうに見えます。昼食会の日には晴れて暖かくなってほしいものです。

営業時間(ご予約・ご変更は 0120-973-154 まで、お早めにご連絡下さい。)

水・金: AM8:50~PM 8:00

月・木・土: AM8:50~PM 5:00

日: AM8:50~AM12:10 (休み:火・祝日)

URL: <http://dekirupc.com/> e-mail: takasaki@dekirupc.com

住所: 〒985-0862 多賀城市高崎2丁目28番1号



教室開業14周年!感謝をこめて会報をお届けします。

ほのぼの通信

5月(08号)

平成27年5月18日発行

ありがとうございます!

お陰様でこの4月で教室は開業満14周年を迎えることとなりました。これまでのご愛顧に心より感謝申し上げますとともにこれからもなにとぞよろしくお願い申し上げます。

思い起こせば何もない小さなちいさな教室にはパソコンが3台しかありませんでした。1台は主に事務処理用に使っていましたので、講習用のパソコンは2台だけしかありませんでした。建物もまだ2階はなく、今の休憩室が教室でした。お客様のいないオープンしたばかりの教室には、2台でも十分でした。今思えば1台から始めるべきでした。

経営は全くの素人。だからこそ、この無謀な起業をしでかすことが出来たのでしょう。分かっていたら根拠のない安易な計画のまま、見切り発車するようなことはできなかったでしょう。計画はおろか募集の方法すら分かりませんでしたから、退職金をもとに準備した**運転資金は瞬く間に底をつき**、誰もいない教室にひとりたずむ日々が幾日も続きました。

お客様のいない教室で真新しい備品に囲まれていると、とんでもないことをしでかしてしまったのではないかという後悔、もう後戻りできないのだという恐怖が心の底からとめどなくあふれ、底の見えない不安に襲われたものです。まだこの不安と恐怖がほんの序章にすぎないことすら分からぬまま…。

だいじょうぶですよ！



多くの方が苦手となさる学習項目の一つとして“保存”が挙げられます。“上書き保存”と“名前をつけて保存”の2つの方法があるのに加え“名前をつけて保存”をする際には“場所”と“名前”を設定しなければなりません。はじめて保存をなさる方には「なぜ二つの方法があるのか」がなかなか納得いただけないようです。

実は違う方法があるわけではないのです。“上書き保存”というのは「“場所”と“名前”を変更せずに保存する」という意味なのです。つまり保存の仕組み自体が違っている訳ではなく「既に一度保存していますので、同じ名前、同じ場所に保存しなおしますね。」ということなのです。

だから“上書き保存”も“名前をつけて保存”も実は同じなのです。“上書き保存”を“場所と名前を変えずに保存します”という名称にして、“名前をつけて保存”を“場所と名前をつけて保存”とすると分かりやすいのかもしれませんが。

同様にワードの“ページレイアウト”の設定に“印刷の向き”の“縦”と“横”があります。この“印刷の向き”が分かりにくく一般的ではないので課題の問題文などでは“用紙の向き”とか“ページの向き”と表現したり、“A4、縦にしてください”となっていたりすることがあります。単に分かりやすい表現に変えているだけなのですが“ワード”の画面上は“用紙の向き”や“ページの向き”という項目はなく“印刷の向き”となっているため混乱してしまい関係のない“文字列の方向”を変え、“縦書き”や“横書き”にしてしまう方がいらっしゃいます。ほとんどの方が一度は

間違ったことがあるのではないのでしょうか。問題文の表現にも誤りやすい原因があるのですが、例えば職場で上司から文書を作るように指示があった場合「用紙を縦にしてください。」と指示されることがあっても「印刷の向きを縦にしてください。」と指示されることはあまりないのではないのでしょうか。そのため問題文などではあえて一般的な日常の言葉で指示されることが多いのです。解答なさる皆さんにはイジワルのように感じられかもしれませんがあえてそう表現しているというのが真実なのです。これらの解決には慣れが必要ですが根本的には問題文であれば“何をしてほしい”と言っているのか、画面の名称であれば“何をする”ための指示なのかな、と考えていただくことなのです。ところがそれをせずに問題文や画面の名称を記号のように鵜呑みしてしまうとその違いは決して埋まらないのです。建築の設計図から立体的な建物を想像する作業をイメージしていただくと分かりやすいかもしれません。

いまま記憶に残っているお客様がいらっしゃいます。とても控えめで普段の講習ではほとんどご質問をなさらない方だったのですが講習終了前に「保存はどうするのですか」とほぼ毎回ご質問があるのです。毎週いらっしゃるのですが同じ保存のご質問が7年以上は続いたでしょうか、ご本人も何度も同じ質問をしているとお分かりになっていらっしゃるのです、申し訳なさそうになさっているのですが、無事に保存ができるホッとしたような表情を浮かべ笑顔でお帰りになられるのです。

ところが2年目が間近になった頃でしょうかいつの間にか保存のご質問をいただくことがなくなっていたのです。